

# 2023 第2回 京大本番レベル模試（文系）

採点基準

## ■現代文 採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文（章）の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 得点箇所のある漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の欠落等については、一つごとに1点減点する。尚、同一の誤字、送り仮名の誤りの繰り返しについては、1点だけの減点でよい。

## □ 現代文 50点

問一 12点

### ■形式上の不備

- ・文末表現は要素G参照

### ■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A○2点

B○2点

C○2点

D○1点

他人と関わることもなく、建設的なこともできずにぼうつと無駄な時間を過ごし、孤独感に襲われて

F○3点

自分の存在意義さえ希薄に感じられた時、それは新たな自己と世界が生成する前触れなのだと思いますことができたから。（12点）

### ■要素A 「他人と関わることもなく」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。「自分の殻に閉じこもり」でも○
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

### ■要素B 「建設的なこともできずに」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

### ■要素C 「ぼうつと無駄な時間を過ごし」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

### ■要素D 「孤独感に襲われて」…1点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。「誰からの連絡もなく」でも○

### ■要素E 「自分の存在意義さえ希薄に感じられた時」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

### ■要素F 「新たな自己と世界が生成する前触れなのだと思います」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。「顕在的な変化をもたらす前の準備期間なのだ

と公的に捉えることができたから。」でも○  
 ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G 「…から・ので・ため」といった文末表現が原則。理由説明答案として不適切であると判断される場合はマイナス1点。

## 問二 8点

■形式上の不備

・文末表現は要素D参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A○3点

B○2点

未体験の人間関係、生活の場や環境にチャレンジすることで、自己と世界との間に未知の交流や連携が生ま

C○3点

れ、心身を構成していた要素とその構成が変化していくこと。(8点)

■要素A 「未体験の人間関係、生活の場や環境にチャレンジする」…3点

・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

・「人間関係」「生活の場や環境」のいずれかに相当する説明を一つ欠く場合は2点。

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B 「自己と世界との間に未知の交流や連携が生まれ」…2点

・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。「異質なものが自分の中に入り込む&自分から

出ていき、つながりが生まれ」などでも○。

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「心身を構成していた要素とその構成が変化していく」…3点

・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

・変化するものとして、「自分自身」でも可。

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 「…(という)こと」という文末表現が原則。不適切な文末表現であると判断される場合はマイナス1点。

問三 8点

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A〇2点

B〇2点

C〇2点

米国留学中に医療人類学を学んだ筆者は、医学や医療の営みを外部から観察する視点を獲得し、臨床医療への

D〇2点

の違和感や疑問を克服すべく研究者へと方向転換したということ。(8点)

■要素A「米国留学中に医療人類学を学んだ」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「医学や医療の営みを外部から観察する視点を獲得し」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「臨床医療への違和感や疑問を克服すべく」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「研究者へと方向転換した」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「…(という)こと」という文末表現が原則。不適切な文末表現であると判断される場合はマイナス1点。

問四 10点

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A〇1点

B〇1点

C〇3点

メンタルヘルスの在り方、インフォームドコンセントの際の医師の倫理観や行動についての異文化間の比較研究、また、トラウマやジェンダー、セクシュアリティといった、医学や医療をめぐる社会的な問題を研

D〇2点

E〇3点

究する学問。(10点)

■要素A「メンタルヘルスの在り方」…1点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

■要素B「インフォームドコンセントの際の」…1点

- ・ 「インフォームドコンセント」は「告知」で可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

■要素C「医師の倫理観や行動についての異文化間の比較研究」…3点

- ・ 「行動」はなくても可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「異文化間（の比較）」に相当する説明を欠くなど、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「トラウマやジェンダー、セクシュアリティといった」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「トラウマ」「ジェンダー」「セクシュアリティ」のいずれか一つを欠くなど、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「医学や医療をめぐる社会的な問題を研究する」…3点

- ・ 「（をめぐる）社会的な問題を研究する」は「外部から観察する（視点を持つ）」でも可。
- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F「…学問」という文末表現が原則。「学問」について説明している答案の文末表現として妥当で

- あると判断できれば広く許容してよい。不適切であると判断される場合はマイナス1点。

## 問五 12点

■形式上の不備

- ・ 文末表現は要素F参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A○2点

B○2点

C○3点

世界には変化するものと変化しないものが共存し、異質な人間や事物同士が閉じながら開かれている状態

D○2点

E○3点

でクロスしつつ、人間の感性が合流と離散を繰り返すことで、新たな世界や自己、意味が生成してくると考えられるから。

■要素A「世界には変化するものと変化しないものが共存し」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「異質な人間や事物同士が」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「閉じながら開かれている状態でクロスしつゝ」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「クロスしつゝ」に相当する説明を欠く場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「人間の感性が合流と離散を繰り返す」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「新たな世界や自己、意味が生成してくると考えられる」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「世界」「自己」「意味」をそれぞれ1点とし、一つ欠くごとにマイナス1点。
- ・全体として説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 「…から…ので…ため」といった文末表現が原則。理由説明答案として不適切であると判断される場合はマイナス1点。

二 現代文 50点

問一 8点

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A〇1点

B〇3点

C〇2点

筆者が今の人が時代遅れだという理由は、あらゆる物事が人間の予想を超えた速度で進行し、そのことを予

D〇2点

見できなかった人間が困惑していることによるということ。(8点)

■要素A「筆者が今の人が時代遅れだという理由は」…1点

- ・ほぼ同等の内容が答案のどこかにあれば可。

■要素B「あらゆる物事が人間の予想を超えた速度で進行し」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「そのこと(＝要素B)を予見できなかった人間が」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「困惑していることによる」…2点

- ・類似性が感得できる説明を広く許容して可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「…(という)こと」という文末表現が原則。不適切な文末表現であると判断される場合はマイナス1点。

問二 8点

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A〇2点

B〇2点

C〇2点

今日の世界を不安に陥れている思想や政治形態の対立について、その優劣を明確に決めることもできず、

D〇2点

そうした対立を結局は武力により解決しようとしているから。(8点)

■要素A「今日の世界を不安に陥れている」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「思想や政治形態の対立について」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「その優劣を明確に決めることもできず」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「その対立を結局は武力により解決しようとしている」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「…から…ので…ため」といった文末表現が原則。理由説明答案として不適切であると判断される場合はマイナス1点。

### 問三 14点

■形式上の不備

- ・ 文末表現は要素G参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A○1点

B○2点

C○3点

若い頃の筆者は、人類が地球と終末の運命を共にしないために、科学の発達は全て許容しうると考えていた  
D○2点

E○3点

F○3点

が、時に極度の不安焦慮を感じることもあり、東洋の古美術や動植物を育む自然に親しむうちに、地球と運命を共にすることにもむしろ心の平安を抱くようになったということ。(14点)

■要素A「若い頃の筆者は」…1点

- ・ 箇所を特定できなくても、筆者の考えが加齢と共に変化したというニュアンスが読み取れれば可。

■要素B「人類が地球と運命を共にしないために」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「科学」という語を欠くなど、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「科学の発達は全て許容しうると考えていたが」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 「ときに極度の不安焦慮を感じることもあり」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「東洋の古美術や動植物を育む自然に親しむうちに」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「東洋の古美術」「(動植物を育む) 自然に親しむうちに」のいずれかを欠く場合は2点。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 「地球と運命を共にすること」にむしろ心の平安を抱くようになった」…3点

- ・ 「心の平安を抱く」というニュアンスが読み取れれば同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G 「…(という) こと」という文末表現が原則。不適切な文末表現であると判断される場合はマイナス1点。



問四 8点

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A〇2点

B〇2点

C〇2点

他の動物よりはるかに進歩したと思いがり、自らの分を忘れて自然の法則から逸脱している人間も、

D〇2点

所詮は地球上に生じた動物の一種に過ぎないのだという思い。(8点)

■要素A「他の動物よりはるかに進歩したと思いがり」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「自らの分を忘れて」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「自然の法則から逸脱している人間」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「所詮は地球上に生じた動物の一種に過ぎないのだ」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「筆者の思い」を説明した答案の文末表現として妥当であると判断できれば広く許容してよい。不適切であると判断される場合はマイナス1点。

問五 12点

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A〇2点

B〇3点

C〇2点

D〇2点

E〇3点

思想や科学を進歩、発達させ、今や地球上の動物の頂点にまで登りつめたかに見える人間ではあるが、限界も考慮せずに発展させた思想や科学の成果を持て余し、自分自身を亡ぼしかねない危機的状況も予測されるから。(12点)

■要素A「思想や科学を進歩、発達させ」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「今や地球上の動物の頂点にまで登りつめたかに見える人間」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「限界も考慮せずに発展させた」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「思想や科学の成果を持て余し」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「自分自身を亡ぼしかねない危機的状況も予測される」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F「…から…ので…ため」といった文末表現が原則。理由説明答案として不適切であると判断される場合はマイナス1点。

三 古文 50点

※内容説明の設問では、末尾の句点がないものは1点減点。ただし、現代語訳の設問では、文末の句読点は不問。

問一 10点

【模範解答】

A 〇3点

B 〇2点

C 〇3点

初めにも申し上げたことですが、私はただあなたに薄情だなどと 思われ申し上げることはするまい

D 〇2点

と思っているからこそ (ほかに妻を持つようなことは断念してしまっているのです。)(10点)

■採点のポイント

○道頼(中将の君)から妻(女君)に対する会話文中の現代語訳であるから、主体は一人称「私(＝道頼)」、客体は二人称「あなた」ととする。

○敬語の種類・有無によって、主体は正確に判断できる。○加点要素が答案の中に表記されており、A～Dの各配点部分の中で構成要素として機能していれば、例えば「私」などが、重複して記述されていなくてもよい。

■各加点要素の加点の条件

A 「初めにも申し上げたことですが、」(3点)

※「はじめも聞こえしを」の現代語訳。

※「この「聞こゆ」は、謙譲語の本動詞「申し上げる／お話しする」の意味である。

※「この「き」は、直接経験過去の助動詞である。

※「この「を」は、単純接続の助詞「…だが／…けれど」の意味である。

○会話文中なので、丁寧語の表現「…です／ます」があった方がよいが、なくとも減点しない

加点ポイント

(私が) 初めにも (あなたに) 申しあげたことですが、

※( )内の主体・客体は無くてもよいが、文脈上、関係がこのようにとれない書き方の場合は傍線部要素があっても加点しない。

※ (例) あなたが初めにも申しあげたことですが、

初めにもあなたが申しあげたことですが、

B 「私はただあなたに薄情だなどと」(2点)

※「ただつらしと」の現代語訳。

※「この「つらし」は、「薄情だ／冷たい」等の意味である

加点ポイント

ただ（私／道頼は）（あなたに）薄情（／冷たい）（な男）だ（など）と

※（ ）内の主体・客体等は無くてもよいが、明らかな間違いがある場合は加点ポイントがそろっていても加点しない。

C 「思われ申しあげることとはするまい」 (3点)

※「…と思はれきこえじ」の現代語訳。

- 「この」の「る」は、受身の助動詞である。
- 「この」の「きこゆ」は、謙譲語の補助動詞「…申し上げる／お…する」の意味である。
- 「この」の「じ」は、打消意志の助動詞である。
- 「この」の主体は「私（道頼）」・客体は「あなた」である。

加点ポイント

私は…あなたに思われ申しあげることとはするまい  
① ② ③

※ポイント③があるのは当然だが、解答全体から①・②が正しく読み取れない場合は▲1点ずつ減点。

D 「と」思っているからこそ（ほかに妻を持つようなことは断念してしまっているのです。） (2点)

※「…と」なむ思へば、「」の現代語訳。

- 「思へば」は順接確定条件「…ので／…から」の意味である。
- 省略されている「ほかに妻を持つようなことは断念してしまっているのです」の部分は、記述されていればさらによいが、なくても減点はしない。

加点ポイント

…と「思っているからこそ」(ほかに妻を持つようなことは断念してしまっているのです。)

(2)

【模範解答】

A ○3点

たとえば、ほかの人々がとやかくあなたに申しあげたとしても、まさか私がほかに妻を持つようなことはあるまい

C ○3点

いと「思っているからこそ」(10点)

B ○4点

## ■採点のポイント

○敬語の種類・有無によって、主体は正確に判断できる。○加点要素が答案の中に表記されており、A～Cの各配点部分の中で構成要素として機能していれば、例えば「私」などが、重複して記述されていなくてもよい。

A 「たとえば、ほかの人々がとやかくあなたに申しあげたとしても、」 (3点)

※ 「人々とかう聞こゆとも」の現代語訳。

※ この主体は「ほかの」人々／女房たち／乳母たち／衛門たち／世間の人々」である。

※ この副詞「とかう」は「とやかく／あれやこれやと／なんやかやと」の意味である。

※ この客体は「あなた」である。

※ この「きこゆ」は、謙譲語の本動詞「申し上げる／お話しする」の意味である。

※ この接続助詞「とも」は逆接仮定条件「たとえば」…たとしても／もし…ても」の意味である。

### 加点ポイント

(たとえ) (ほかの) 人々(女房たち／乳母たち／衛門たち／世間の人々) がとやかく／あれやこれやと／なんやかやと) あなたに申しあげたとしても、

B 「まさか私がほかに妻を持つようなことはあるまい」 (4点)

※ 「よもあらず」の現代語訳。

※ この主体は「私(＝道頼)」である。

※ この呼応の副詞「よも…じ」は「まさか…まい／ないだろう」の意味である。

※ この「あり」は代動詞で、「(私が) (あなたの／あなた以外の) ほかに妻を持つ」の意味である。

### 加点ポイント

まさか私がほかに妻を持つようなことはあるまい

△「この呼応の副詞」「よも…あらず」「」に対して、「まさかそのようなことはあるまい／ないだろう」「等と直訳した答案は2点とする。

C 「とお思いになってください」 (3点)

※ 「と思せ」の現代語訳。

※ この主体は「あなた」であるが、会話文中の命令形であり、明らかなので、記述がなくともよい。

○「この「思せ」は、尊敬語の本動詞「思す」の命令形で、「お思いになってください／お考えになってください」の意味である。

○現代語訳の設問なので、句読点(、・)や引用符合(「」)の有無は問わない。

加点ポイント

とお思ひになつてくたさる。

問二 (10点)

【模範解答】

A〇2点

私はあなたのことを、私のほかに妻を持つような不誠実な人ではないと思つてゐるが、もしかしたら、本当の

B/C/D C〇2点

D前半

B〇3点

あなたは

口では愛してゐるなどと言つてゐても、実は頼りにならない

浮気な人なのかも知れないと

D〇3点

不安であるということ。

■採点のポイント

○ 加点要素が答案の中に表記されており、A～Dの各配点部分の中で構成要素として機能していれば、加点要素が重複して記述されていなくてもよい。例えば、「あなたは」などは、一度書かれていて、その部分にかかつていれば都度書かれていなければならない。

○ 説明の設問なので、主体・客体は、「道頼(私)」・「女君(あなた)」等と三人称にしても構わない。

■各加点要素の加点の条件

A 「私はあなたのことを、私のほかに妻を持つような不誠実な人ではないと思つてゐる」(2点)

※ 「さ思はむ」の理解。直前で道頼が言つてゐる「よもあらず(ほかに妻を持つようなことはあるまい)と思せ」の内容

○ 「私(女君)はあなた(道頼)を、誠実な人間(頼りになる人/他に妻を持つような男でない)と信じてはゐる」という要素があればよい。

○ この主体は「私(女君)」、客体は「あなた(道頼)」であるが、B以下の記述でそのことが明らかに分かる場合は記述がなくとも可とする。

加点ポイント

私(女君)はあなた(道頼のこと)を、(私の)ほかに妻を持つような(不誠実な)人ではないと思つてゐるが、

B 「あなたは・・・浮気な人なのかも知れない」(3点)

※ 「あだ人」 「下くずれゆく岸」の指示内容と隠喩の理解。

○ 「あだ人」は、「軽薄な人」・「浮気な人」の意。その例えが「下くずれゆく岸」。

○ 「あなた(＝道頼)は、浮気な(≠不誠実/軽薄な)人間かもしれないという疑い」という要素があればよい。

○ 「この主体は「あなた(＝道頼)」であるが、A・C・D等、他の箇所の記述からそれとわかる答案については記述がなくともよい。

加点ポイント

あなた(≠道頼)は浮気な(≠不誠実な/軽薄な)人なのかも知れない(という疑惑/疑い)

☆ Aで「私(＝女君)はあなた(＝道頼)を、誠実な人間(≠他に妻を持つような男でない)と信じてはいる」という要素がある場合には、「そう(いう人)ではないのかも知れない(という疑念)」というように、指示語(そう/そのような/そういう人)で提示してあっても、B部分は正解とし、3点配点を与える。

C 「あなたは・・・口では愛しているなど言っている」(2点)

※ 「思ふといへど」の理解

○ 「思ふ」＝「(あなたのことを)愛している」。「愛している」と同等の表現なら可だが、単に「思う」は不可。

○ 「あなた(＝道頼)の愛は、口先ばかり/上部だけ」という要素があればよい。

○ 「あなた(＝道頼)の愛」であるが、A・C・D等、他の箇所の記述から「あなた(＝道頼)の」とわかる答案については、この記述がなくともよい。

加点ポイント

あなた(道頼)は口では愛しているなど言っている

D 「あなたは・・・頼りにならない・・・不安である」(3点)

※ 「頼まれずして」の理解

○ 「実際は、あなた(＝道頼)は、頼りにならないのではないかという、私(＝女君)の不安」という要素があればよい。

加点ポイント

あなた(≠道頼)は頼りにならない・・・不安である(≠あなたのことを信じきれない)

☆ Aで「私（＝女君）はあなた（＝道頼）を、誠実な人間（＝他に妻を持つような男でない）と信じてはいる」という要素がある場合には、「実際は（＝本当は／現実には）、そう（いう人）なのかも知れないと不安であるということ。」というように、指示語（そう／そのような／そういう人）で提示してあっても、D部分は正解とし、3点配点を与える。

### 問三 10点

#### 【模範解答】

A 〇3点

B 〇4点

もし、私があなたのことをお慕い申し上げるなどと（軽薄に）申しあげるのならば、私のことをごく崩れるか

C 〇3点

もしれない頼りにならない男だと（おしやうておまじくおしやうが）ぞつてはなすか（ひ）

#### ■採点のポイント

○ 加点要素が答案の中に表記されており、A～Cの各配点部分の中で構成要素として機能していれば、重複して記述されていなくてもよい。

#### ■各加点要素の加点の条件

A 「もし、私があなたのことをお慕い申し上げるなどと（軽薄に）申しあげるのならば、」（3点）

※ 「『思ひきこゆ』と聞こえはこそ」の解釈

- ここの主体は「私／道頼」である。
- ここの客体は二人称「あなた」である。
- ここの「思ふ」は、「愛する」の意味である（ここは「思う」でも可とする）。
- ここの「きこゆ」は、謙譲語の補助動詞「お…申し上げる／お…する」の意味である。
- ここの「聞こゆ」は、謙譲語の本動詞「申し上げる」の意味である。
- ここの「聞こえはこそ」は、順接仮定条件「もし…ならば／…たしたら」の意味である。

#### 加点ポイント

もし、私（／道頼）があなた（のこと）を（お慕い申し上げるなどと）（軽薄に）（申しあげるのならば、

B 「私のことをいつ崩れるかもしれない頼りにならない男だと」（4点）

※ 「あやふしとも」の解釈

○ 「あやふし」の主体は「私／道頼（のこと）」である（他の箇所の記述からそれとわかる答案については記述がなくともよい）。

○ ここの「あやふし」は、直前の「下くずれゆく岸」の諷諭となっているので、「いつ崩れるかもしれない／頼りにならない／不誠実だ」等の意味で訳さなくてはならない。



加点ポイント

(あなたは) 私 (道頼) のことを (いつ崩れるかもしれない) 頼りにならない男だと

C おっしゃってもよいでしょうが(そうではないのですから)、「」(3点)

※「こそ、…のたまはめ、」の解釈

○「この主体は「あなた」であるが、会話文中の命令形であり、二人称主語は明らかなので、記述がなくともよい。

○「この「のたまふ」は、尊敬語の本動詞「のたまふ」で、「おっしゃる」の意味である。

○「この「む」は、適当(勧誘)の助動詞である。

○「この文中の係結び「こそ…め、」は、逆接を表すから「…てもよいだろうが／…てもよいだろうけれど(そうではないのだから)」の意味である。今回は、省略された「そうではないのだから」はなくともよい。

○現代語訳の設問なので、句読点(、・。( )や引用符号(「」)の有無は問わない。

加点ポイント

おっしゃってもよいでしょうが(そうではないのですから)、

問四 10点

【模範解答】

A○5点

衛門が右大臣家に、道頼にはすでに通い婚の関係にある女性が存在すると報告したので、右大臣家は道頼と娘との婚礼を断念したということ。

B○5点

■採点のポイント

○尊敬語「おぼす」が使われているので、この主体は「衛門(乳母)」ではなく、右大臣家(の人間)である。

○「思し絶ゆ」は複合動詞「思ひ絶ゆ＝断念する」の尊敬語である。

○「断念」したのは、「道頼と右大臣家の娘との婚礼」である。

○加点要素が答案の中に表記されており、A・Bの各配点部分の中で構成要素として機能していれば、重複して記述されていなくてもよい。

■各加点要素の加点の条件

A「衛門が右大臣家に、道頼にはすでに通い婚の関係にある女性が存在すると報告したので」(5点)

※「思し絶えにけり」という行為の理由・原因。

- この主体は「道頼の乳母／衛門」である。
- この客体は二人称「右大臣／右大臣家の人」である。
- 「衛門が右大臣家に、道頼にはすでに妻がいると報告した」という行為の理由・原因が記述されていればよい。

加<sub>ホ</sub>点<sub>ポ</sub>イン<sub>ト</sub>

衛<sub>メ</sub>門<sub>メ</sub>（＝道頼の乳母）が 右大臣家（側）に、道頼にはすでに通い婚の関係にある女性が存在すると報告した（／告げた／話した）ので

B 「右大臣家は道頼と娘との婚礼を断念したということ」 (5点)

※ 「思し絶えにけり」という行為の具体的説明。

- 「右大臣（家側の人間）が、道頼と右大臣の娘との婚礼を断念した」という要素が必要である。
- これは「説明せよ」という設問の文末であるから、句点「。」のないものは減点1点とする。
- 「どのようなことを言っているのか」と問われているので、「…（という）こと。／…（という）心理（状態）。／…（という）不安。」等となっていないものは減点1点とする。句点「。」のないものは減点1点とする。

加<sub>ホ</sub>点<sub>ポ</sub>イン<sub>ト</sub>

右大臣（家側の人間）は道頼と右大臣の娘との婚礼（／婚姻／結婚）を断念した（／諦めた／破談にした）という」と。